

活 動 名	令和 2 年度応用理学研究会現場見学会 (CPD 番号 2 - 2)
主 催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日 時	2020 年 10 月 30 日 (金) 9 : 00 ~ 17 : 00
場 所	久慈溪流および久慈市、野田村周辺
参加人数等	総勢 22 人 (講師 2 人を含む)

活 動 内 容

岩手県支部応用理学研究会では、昨年度に引き続き、継続研鑽の一環として現場見学会を企画した。当日は、秋晴れの好天に恵まれ、次のような内容と行程で研修会が行われた。

テーマ：久慈溪流の地質と周辺のジオポイントの巡検

講師：山岸千人氏 (岩手県立博物館 主任専門学芸調査員 (地質部門))

：望月貴史氏 (岩手県立博物館 学芸員 博士 (理学))

行程：

・岩手県支部応用理学研究会参加者集合

9 : 00 道の駅おりつめ駐車場に集合し、乗用車に分乗して出発

9 : 30 久慈溪流(1)大滝・小滝周辺での地質観察

10 : 40 久慈溪流(2)鏡岩周辺での地質観察

11 : 30 久慈溪流(3)大川目地区での地質観察

12 : 00 ~ 12 : 30 昼食

12 : 30 ~ 13 : 30 琥珀博物館自由見学 or 休憩

13 : 30 ~ 13 : 55 琥珀発掘体験場見学

14 : 25 ~ 15 : 25 野田村野田漁港、米田海岸での地質観察

15 : 55 ~ 16 : 15 久慈市川貫地区での地質観察

17 : 00 道の駅おりつめに戻り解散

午前の久慈溪流では、ちょうど紅葉も見頃を迎えており絶景の中、様々な地質を観察することができた。午後の見学では、全国的にも珍しい古第三紀暁新世の地質の他、化石の観察もすることができた。丁寧なご説明を頂いた講師のご両名に、深く感謝を申し上げたい。

《菅原 弘 記》

・・・活動状況写真・・・



紅葉の久慈溪流での地質観察風景

大滝、小滝の周辺では三疊紀岩泉層群の間木平 (まぎだい) 層を観察した。今回の巡検地内では最も古い地層である。間木平 (まぎだい) 層は、主に泥岩、砂岩・泥岩 (頁岩) 互層、砂岩、チャートからなる地質である。大滝および小滝では層状チャートを、久慈溪流沿いに歩きながら地層の変化を観察し、最後に砂岩と泥岩の明瞭な境界を確認した。



紅葉の鏡岩を背景に集合写真

鏡岩の周辺では、まず、東北電力山口発電所取水堰付近で間木平（まぎだい）層の上位にあたる沢山川（さわやまがわ）層の変質した灰色～灰緑色玄武岩および玄武岩質凝灰岩を観察した。

次に、鏡岩である。鏡岩は、三疊紀岩泉層群の安家層で、安家洞や龍泉洞を構成する石灰岩である。

また、2016年8月の台風10号によって、付近の幾棟かの「東屋」が基礎を残して破壊されたことも、併せて紹介された。



大川目で講師の説明を聞く参加者

大川目では、変成作用を受けて大理石化している安家石灰岩の露頭を、時間の都合上、対岸から観察した。

講師からの説明では、かつて久慈川の旧河道沿いで、大川目鉱山としてモリブデンを含有する輝水鉛鉱が採掘されていた。主となる鉱床は岩井川北側の崖に坑道を穿ち、そこから掘り進めていった「岩井鉱床」であり、現在でも林道脇に坑道跡を認める。

また、河床の大理石の中に、輝水鉛鉱を観察することができる。



久慈琥珀博物館前での集合写真

リトアニア館でレストラン「くんのこ」の特製弁当を食した後、久慈琥珀博物館を自由見学した。写真は午後の出発前の集合写真である。

本博物館は、日本で唯一の琥珀専門博物館で、琥珀の産地に立地していることもあって琥珀のコレクションは質・量共に、国内でここに類する館はない。展示数も豊富だが、琥珀の発掘体験や加工などのアクティビティメニューも多く、琥珀の加工・販売も行っている。



琥珀発掘体験場の見学

琥珀発掘体験場を見学した。ここでは、今年 7 月 16 日、絶滅したサメの仲間ヒボダス類の背びれのとげの化石が見つかっている。
また、発掘体験場に隣接する大沢田川支流では炭質泥岩中に化石密集層（ボーンベッド）が発見され、早稲田大学のグループによって発掘作業が行われている。化石密集層および発掘体験場の琥珀を多く含む層はほぼ同層準であり、当時の河川の河口付近に広がる氾濫原の一部だったと考えられる。



野田漁港（大唐の倉）／米田海岸津波堆積物の観察

野田漁港では、古第三系暁新統野田層群の港層の地質を観察した。
本層は、当時の河川や一部氾濫原の堆積物によって作られた地層と推定されている。ここでは、礫岩層や大型斜交層理の発達する地層を観察した。
米田海岸では、約 7000 年前～現在にかけて堆積した、海浜由来の小石が層をなしている、津波堆積物の地層を観察した。
7000 年間で少なくとも 17 回の津波が生じていたと考えられることが紹介された。



久慈市川貫・港層の地質の観察

野田層群・港層中の石炭層を観察した。本層の平行葉理をなす泥岩は流れが穏やかな氾濫原やその周辺で堆積した地層と考えられ、層準によっては湿地で堆積した石炭層が形成されている。泥岩からは保存状態の良い植物化石が産出し、参加者も日暮れまでの暫しの間、化石の採取に挑戦した。

今日一日、多少ハードなスケジュールでしたが、無事に予定行程を終了でき、講師である山岸氏・望月氏のご両名、色々とお助言を頂いた小野寺支部長、何より参加者の皆様に感謝をして帰路につきました。
皆様お疲れ様でした。（道を間違えて済みませんでした。菅原）